



「料亭白だしと100キロと人間万歳」の関係

この写真の凄さが皆さんにはお分かりになりますでしょうか?これはテクアの新たな鉄人・本田さんの100キロを歩き終わった後の何気ない風景なのですが、この写真をもう少し遠景で撮影したなら、周りはバタバタと倒れこみ、しりもちをついて足を投げ出し、疲れきっている若者がゾロゾロと並んでいるのですが、本田さんはななんと平然と足を折り曲げてしゃがみこんで黙々と弁当を食べているのです。

私も100キロ経験者ですから分かりますが、通常100キロも歩いたら、体は衰弱し食欲減退、足はパンパンにはれて、足の裏は靴擦れし、とてもスニーカーのままで足を折り曲げてしゃがみこむ姿勢は取れないものなのです。100キロを歩いているところを見ていなくとも、この写真を見るだけで本田さんの鉄人ぶりはひしひしと伝わってきます。

そして何も自慢しそも無い本田さんに代わってあえて言わせていただくと、800人中の第11位、19時間48分、年齢59歳の怪記録でした。テクア記録から言うと井上さんが以前に19時間47分という記録をたたき出しているのですが、それよりもわずかに1分届かないわけですが、なんと本田さんはゴールに到着してから、10位の人がポーズをとってゴールの記念撮影をしているところを、お人好しにもずっと待っていてあげていたとのことで、実質上はテクアの新記録だったのではないかと思います。

もちろんこの三河湾100キロウオークは別に速く歩く為でも、完歩が目的でもなく、『歩く』という行為を通して『感動! 感激! 感謝! 人間ってすげえな~! 人間万歳!!』を体感することが趣旨であると主催者の料亭白だしで有名な七福醸造さんもおっしゃられておりますし、その通りだと思っておりますが、それでも歩いている途中で沸々と湧き上がってくるファイティングスピリッツというものが抑えきれず、その人のこころの内面と歩きのリズムが合致し、59歳の普通のアルバイトさんだと思っていた人が(本田さんゴメンナサイ)どんとんと鉄人に変身していく姿は、まさに人間ってすげえな~人間万歳!! そのものではないかと感じました。

『よっしゃ~! 本田さんにやれるんなら、俺もいっちゃったか~!!』という方もいらっしゃると思いますが、くれぐれも自分のペースで歩いてくださいね。本田さんには2人の娘さんがいらっちゃって、高校時代の簿記の全国大会で、上の娘さんが全国3位、下の娘さんにいたっては全国1位だったそうです。表情には出てこない、沸々と湧き上がってくるファイティングスピリッツの源流がまさにここにあったのではないかと感じました。

さて、今回、本田さんのほかにも沸々と湧きあがるファイティングスピリッツをお持ちな方をたくさん発見いたしました。『一つ拾えば ひとつだけ きれいになる』のカゴを背負って、空き缶を拾いながら完歩した宮脇君、わざわざ管理者養成学校の帽子をかぶって完歩した、毎月岡崎インター付近のごみ拾いを一緒にやってくださっている中部ビジネスシステムの大久保社長、つい口が滑って歩くことになったといいながらもきっちり24時間を切って完歩して満足そうな表情を浮かべられていた、西三河掃除に学ぶ会の会長でもあるスギ製菓の杉浦社長、そして何と言っても両足義足のランナーで有名な沖縄の島袋さん! 100キロ途中の激痛に耐えながらも、ゴールされた瞬間のなんとすがすがしい笑顔。

世の中の風潮の中で『がんばらなくてもいいんだよ』といわれると、余計にがんばってしまう、この困った人達に『人間万歳!!』と叫びたい!



